

注 意 報

長崎県病害虫防除所長

令和2年度病害虫発生予察 注意報第13号

たまねぎ（早生・中晩生） ベと病

1. 発生地域（対象地域） 県下全域

2. 発生程度 多

3. 注意報発令の根拠

(1) 2月後期の巡回調査（16筆）の結果、発病株率0.5%（過去4か年平均 0.03%）、発生圃場率50.0%（過去4か年平均 18.6%）で多発圃場が見られた（図1、2）。

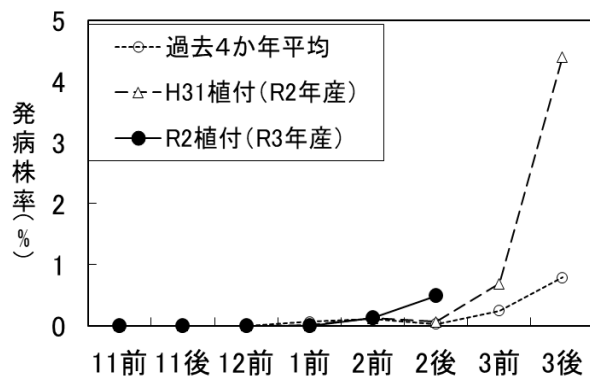


図1 たまねぎべと病発病株率の推移

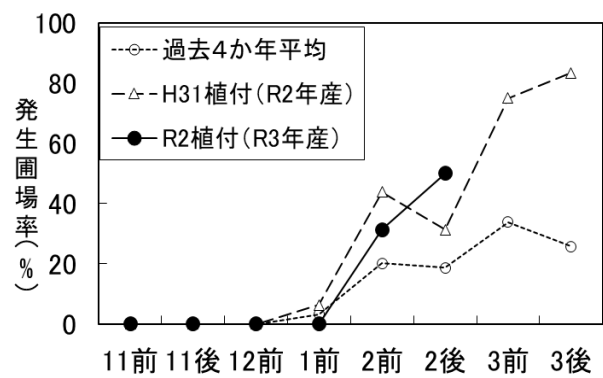


図2 たまねぎべと病発生圃場率の推移

(2) 2月25日に実施した定点調査（諫早市：20筆）の結果、発病株率1.2%（前年同時期 0.6%）、発生圃場率65.0%（前年同時期 80.0%）であった。なお、一部の発生圃場において、二次伝染の病斑が見られた。

(3) 気象予報（福岡管区气象台、令和3年2月25日発表）によると、向こう1か月の天候は数日の周期で変わり平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温は平年よりかなり高くなる見込みであり、本病の感染に好適である。

4. 防除対策

(1) 一次感染株の抜取りの徹底

圃場をこまめに見回り、発病株を発見したら早急に抜き取る。抜き取った株は圃場内に放置せず、孢子が周囲に飛散しないようにその場で直ちにビニール袋等に入れ圃場外に持ち出し、市町に処分方法を確認して焼却施設に搬出するなど適切に処分する。

(2) 薬剤防除の徹底

① 薬剤散布にあたっては感染・発病後では防除効果が低いので感染前の予防防除に努め、7日～10日間隔で継続的に実施する。なお、天気予報等で曇雨天が続くと予想される場合は降雨前の防除を徹底する。

②マンゼブ水和剤（収穫3日前まで、使用回数5回以内）に機能性展着剤を加用して株全体が濡れるようにむらなく散布する。すでにべと病の発生が見られる圃場ではCAA剤等の浸達性や浸透移行性の高い薬剤を下図の体系に組み込んで防除する。なお、CAA剤（プロポーズ顆粒水和剤、ジャストフィットフロアブル等）は耐性菌の発生するリスクが高いとされていることから必要最小限の使用に留める。

3月			4月
上	中	下	上
ジ マ ン ダ イ セ ン 水 和 剤	ジ マ ン ダ イ セ ン 水 和 剤	ジ マ ン ダ イ セ ン 水 和 剤	ジ マ ン ダ イ セ ン 水 和 剤

図 防除スケジュール例

(3) 排水対策の徹底

圃場に水が溜まると本病の発生を助長するので、明渠の切り直し等、排水対策を徹底する。



写真1 タマネギべと病一次感染株
(令和3年2月10日撮影)

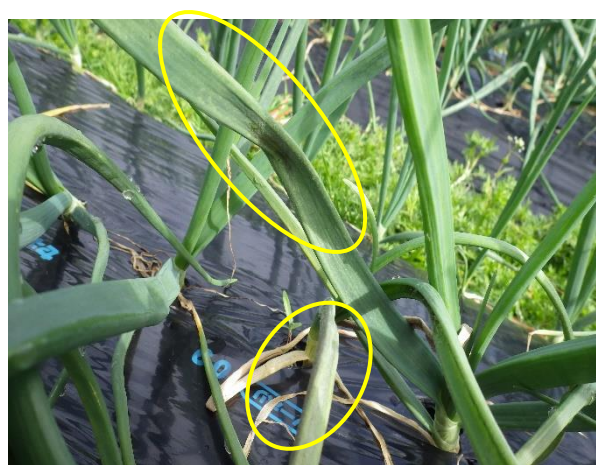


写真2 一次感染株(下)と二次感染株(上)の混在
(令和3年3月2日撮影)

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

